

No. 261

ひがし 57/8/20

広報 しらかわ



— 7月末住民登録人口から —

世帯数	940世帯
人 口	3,736人
転 入	6人
転 出	5人
出 生	1人
死 亡	3人

先月と比較して1人減

昨年の同月と比較して7人増

■発行 東白川村役場 ■編集 東白川村役場総務課 ■住所〒 509-13 岐阜県加茂郡東白川村神土548番地
■☎(057478) 3111・内線34 ■印刷 益田郡下呂町 下呂印刷有限会社



成人病予防検診受診率は62%

年に一度、健康確認のチャンス——成人病予防検診は、ことしも8月4日から村内13会場で行われました。受診者は対象者の62%にあたる1,077人。うち95%の人が『異常なし』の判定を受けました。

写真は、神土農事センター（神付）での検診風景。

ことしも
異常なし

おもな内容 —

- 日向と大林洞地区が着工
(は場整備事業) … P 2 ~ 3
- 「がん」が死因順位のトップ
… P 4 ~ 5
- 中体連体育大会 … P 6
- 村の歴史探ろう … P 7
- 東白川小に「友情の像」
… P 8
- 村の文化財④ … P 9
- トピック … P 10
- けいじ板は P 4 ~ 6 の下欄



日向と大林洞地区が着工

来春一二月完成を目指すほ場整備事業

昨年、モデル実施した日向平地区に続くほ場整備事業は、ことしから本格的なスタートを切る県営畠総の大明神地区実施を前に、第三期山村振興対策事業による日向地区と、村営土地改良事業による大林洞地区で、相次いで工事が始められました。県営畠総は、文字どおり畠作の振興を目的とするもので、工区によってはまだまだ話し合いによって解決しなければならない問題を多くかかえていますが、本号ではこのほど工事が始まつた日向と大林洞地区を中心に、紹介してみましょう。

実施面積は3.4ヘクタール

日向地区

日向地区は、昨年第三期山村振興対策事業によって実施した日向平地区に続く事業で、今回行われるのは日向平第二工区から加子母村境にかけての三・四

六十七ヶ所、用水路工千五ヶ所、排水路工七百十四・五ヶ所です。同地区は、写真でおわかりのよう、先に実施した日向平地

です。

工事請負費をはじめ、電柱などの移転費、工事後の換地費などを含めた総事業費は五千二百万円の見込みです。工事概要是三・四ヶ所の整地工、道路工八百

区に比べ、はるかに高低差が大きいという現況です。単純計算してみると十ヶ所当たりの工事費は百四十七万円余りです。ちなみに日向平地区は約百二十六万円です。

地形の良し悪しによって工事費に差があるのは当然といえますが、当初事業策定段階でお知らせしておりますように、あく



対岸の山から望む日向地区

までも農家の負担は公平に行なうことになっています。

急傾斜地を整備

大林洞地区

日向と日向平地区のほぼ中央から一ヶ余り上がったところに大林洞地区があります。同地区は日向、日向平地区とは飛び離れたところにあるため、第三期山村振興対策と県営畑総の両事業の採択が困難な地区ですが、地元の強い要望もあって、村営事業として実施されることになりました。

事業規模は整地工三・六ヶ

大明神地区は約一ヘクタールを実施

全村的な採択を受けて実施される県営畑総事業は、越原上工区（大明神地区）を皮切りにスタートします。

広報第二五六号でお知らせしましたが、実施面積については

道路工千八十五坪、用水路工千二百四十五坪、排水路工四百十一坪で、総事業費は五千五百十万元。十ア当たりに換算すると約百四十三万円の勘定です。

大林洞地区は溪流沿いの急傾斜地です。今後実施される工区の中にも、この地区と似た地区があり、同区がどのように整備されるのか注目されています。

目標をらくらく達成

本年度の転作面積

水田再編対策による転作面積は、昨年同様三十三ヶが本村の割り当てとなっていますが、七月中に現地確認を行った結果、農家のみなさんのご理解とご協力により約四十二・五ヶが実施されていることがわかりました。

これは達成率にしますと一三〇%ちかい値になります。また、地区別でみた場合、目標を下回ったところは一ヶ所もありませんでした。

転作内容をみてみると、昨

工事入札の結果

年ほ場整備を行った日向平地区では、集団転作として飼料作物や大豆を約一ヶに作付けしているのをはじめ、全体的には流通経路が確立されているためか、ナス、トマト、大豆を作つている農家が多く、全体の半数ちかくを占めています。

札期日②は落札金額および落札業者③は指名業者です。

○日向地区ほ場整備工事

①七月二十日②三千九百万円

—西野建設③大脇建設、西野建設

建設、丸ス産業、山田土建、丸島建設、マルト土木、中島工務店、梅田建設、田口土木、立保土木

◇大林洞地区ほ場整備工事

①七月二十日②四千百万元—

中島工務店③日向地区と同じ

◇大シテ三号線経営林道開設工事

①七月二十四日②二千八十五万円—九登建設③山田土建、丸登建設、マルト土木、立保土木

七月中に発注した工事の入札結果は次のとおりです。①は入

ところで、十ア当たりの単価を比べた場合、急傾斜地の大林洞のほうが日向地区よりも若干安くなっていますが、これは田畠合わせての平均的な単価を割りだしたものです。

つまり、大林洞地区は畠地が多いということです。田だけをみてみると、急傾斜地である大林洞のほうが割り高です。

「がん」が死因順位のトップ

決め手は早期発見、早期治療

す。病名別にみますと脳血管疾患が九十人でトップ。次いで悪性新生物（いわゆるがん）六十三人、心疾患四十八人で、七割以上が三大成人病となっています。

りました（厚生省・昭和56年「人口動態の概況」）。また、全死亡者数に占める「がんによる死者」の割合は二三・一%で、亡くなる人のおよそ四人に一人はがんが原因となっています。九月は「ガン征圧月間」です。がんに対する正しい知識を身につけ、適切な予防と早期発見に心がけましょう。

高い若年死亡率

胃の集中検診を
ご利用ください

禁煙——これが肺がん予防の
第一歩です。

いほど発生の危険性は増大するといわれています。

戸籍の窓（七月）
（敬称略）

がんを部位別にみると、全
国の傾向と同様第一位は胃で、

一方、これから増えるとみられるのは肺がんで、特に男の場合は昭和六十八年ころには、男がんを抜いて死因の第一位になるとどうと考へられています。

本村の場合、対象人口が少ないため、この値だけでは何ともいえませんが、消化器系のがんが多いというのは確かです。しかし、食生活の変化や検診による早期発見が可能になり、胃がんによる死亡率は減少しているといわれます。十数年後には現在の半分くらいになるだろうと推計されています。

特に集団検診として行ってくる胃と子宮の検診は、なんの症状もない人が気軽に受けることができ、早期発見、早期治療ができるしくみになっています。

本年度の子宮検診はすでに終わりましたが、胃の検診は九月十九、二十日と十月一日の三日間、神土、越原、五加でそれぞれ一日ずつ行う予定です。

満四十歳を過ぎたかたは、単
時間で済ますことができるこの
チャンスを有効に利用し、健康
を確認して明るい生活を送つて
いただきたいものです。なお、

歌会始のお題は「島」

〔社会福祉施設指定〕
現金五万円—安江弦（曲坂）
ぞうきん百枚—長寿会

■善意の寄付 （敬称略）

安江さくよ
中島つる
今井いちゑ
81歳(神付)
79歳(曲坂)

①詠進歌は自作の歌で一人一首とし、未発表のものに限ります。②用紙は、半紙（習字用の半紙（白紙）がよい）とし、毛筆で自書してください。③病気または身体障害のために毛筆で自書することができない場合には、他人が代筆しても差し支えありませんが代筆の場合にはすべてその理由

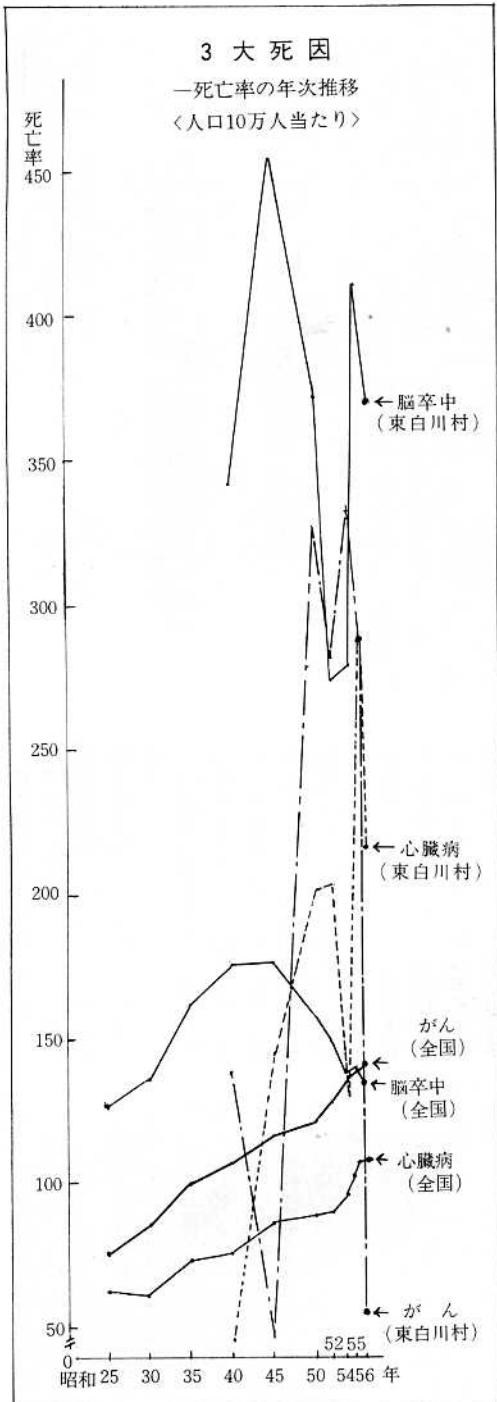
ことしの検診では、胃のはかり腸の検査も同時にを行うことになります。

自己検診法では
乳がん発見は

乳がんは女性特有のがんで、以前は日本人には少ないといわれていましたが、最近増えており、将来も増加する傾向にあるとみられています。

乳がんのできやすいところは、乳房の外側上が最も多く約五〇%、次いで内側の上方、乳首付近などとなっています。

乳がんは女性ホルモンのバランスの乱れが原因といわれます。保健婦などの指導を受け、自己検診法によって早期発見を心がけてください。



乳がんの自己検査法



けいじばん

詠進期間は、九月一日から
一月十二日。郵便のあて先は
六のとおりです。

を書いた別の紙を添えてください。なお、盲人のかたは点字で詠進しても差し支えありません。^④書式は半紙を二つ折りにし、開いて右半面にお題と歌、左半面に郵便番号、住所、氏名（ふりがなつき）生年月日および職業を書いてください（書式図参照）



第2回ふるさと教室で竹トンボづくりをする子どもたち

村の歴史探ろう

「ふるさと教室」が開校

○ 小学校五年生を対象とするふるさと教室が、ことしも開かれました。夏休み中の四回と来春一回の計五回の計画で、村の歴史や伝説、民話、村の文化財、年中行事などを学習するほか昔の遊び道具を作ることも盛り込まれています。

○ ふるさと教室は、次代を担う子どもたちに学習と行動をとおして村を愛する心を養つてもらおうというものです。昭和五十四年から行っているものです。

○ 年生で、一回目は七月二十六日に村民センターで開かれ、四十八人が参加。東白川にはいつごろから人が住んでいたのか、また、暮らしへどのように変わってきたのかなど、村の大まかな歴史を学びました。

八月五日には第二回が研修館で開かれ、老人クラブのお年寄りを講師に、竹トンボと紙鉄砲づくりをしました。出来上がった子どもから順にグラウンドへ出て飛ばしていましたが、ほとんどの子は遊び道具といえは既製品を使っている

例年どおり対象者は小学校五年生で、一回目は七月二十六日に村民センターで開かれ、四十八人が参加。東白川にはいつごろから人が住んでいたのか、また、暮らしへどのように変わってきたのかなど、村の大まかな歴史を学びました。

第三回は八月十九日に村民センターで開かれ、村に伝わる伝説や民話を学び、第四回は八月二十六日、村の文化財や草花を実際に見て回りました。

そして最後の第五回は、来月二十三日、村に伝わるしきたりなど年中行事のお話を聞くことになっています。

親子で楽しく夕涼み

越原保育園

み会で楽しみました。

夏の夜を花火や踊りで楽しもう」と、越原保育園では七月二十九日に夕涼み会を行いました。

夕涼み会は、昨年まで行っていた盆踊りにかかるもので、こしが初めて。午後四時からマス百五十五匹を近くの川に放してマスつかみを行ったあと、全国児がそろってカレーライスの夕食をとりました

午後六時三十分からは花火や、キャンプファイヤーを開んでのフォークダンス（写真）など、親子でいっしょに夏の夜を夕涼



季節の話題

季節の話題

だけに、自分でナイフを使って削り、苦労して仕上げた作品が飛ぶと「飛んだ飛んだ」と大はしゃぎでした。

子どもたちは、この日のふるさと教室で作る喜びを知ったことでしょう。

第三回は八月十九日に村民センターで開かれ、村に伝わる伝説や民話を学び、第四回は八月二十六日、村の文化財や草花を実際に見て回りました。

ただ、自分でナイフを使って削り、苦労して仕上げた作品が飛ぶと「飛んだ飛んだ」と大はしゃぎでした。

子どもたちは、この日のふるさと教室で作る喜びを知ったことでしょう。

第三回は八月十九日に村民センターで開かれ、村に伝わる伝説や民話を学び、第四回は八月二十六日、村の文化財や草花を実際に見て回りました。

ただ、自分でナイフを使って削り、苦労して仕上げた作品が飛ぶと「飛んだ飛んだ」と大はしゃぎでした。

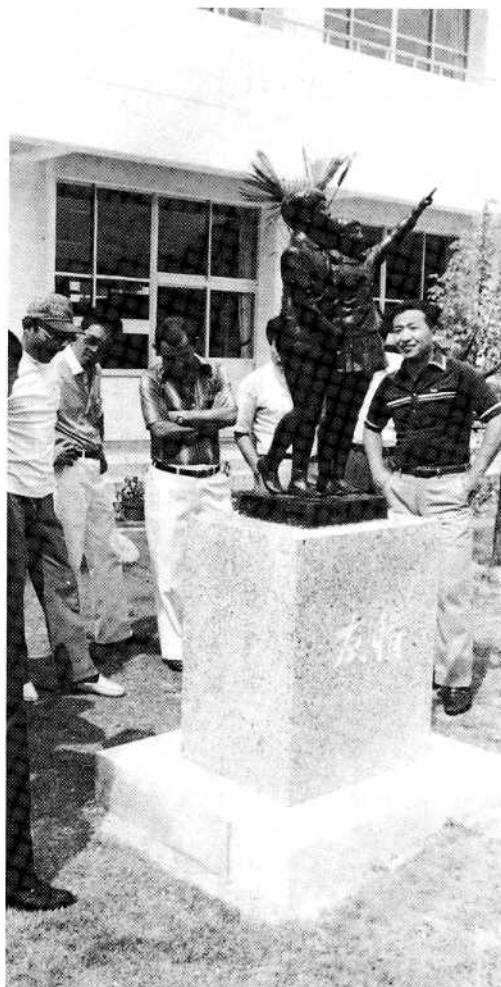
子どもたちは、この日のふるさと教室で作る喜びを知ったことでしょう。

第三回は八月十九日に村民センターで開かれ、村に伝わる伝説や民話を学び、第四回は八月二十六日、村の文化財や草花を実際に見て回りました。

ただ、自分でナイフを使って削り、苦労して仕上げた作品が飛ぶと「飛んだ飛んだ」と大はしゃぎでした。

子どもたちは、この日のふるさと教室で作る喜びを知ったことでしょう。

第三回は八月十九日に村民センターで開かれ、村に伝わる伝説や民話を学び、第四回は八月二十六日、村の文化財や草花を実際に見て回りました。



東白川小学校へ贈られた「友情の像」と贈呈した28年度卒業生のみなさん

古くから東白川村の中に浸透している人情豊かな村民性が、つまでも受け継がれるようそんな願いを込めた像が東白川小学校へ贈られ、八月十四日その除幕式が行われました。

この像は「友情の像」と名付けられ、昭和二十八年度に旧神土、越原、五加の各小学校を卒業された四十七人のみなさんが贈られたものです。

像は青銅製で高さは一㍍余り、男の子と女の子が肩を組み、女の子が左手を高く掲げています。台座は花こう岩でできた高さ八十㌢、幅六十五㌢、奥行きが五十㌢のりつばなもので、正面には友情の文字が刻まれています。

この友情の像は一年生教室前の遊びの広場に取り付けられ、今後雨の日も風の日も子どもたちを身守り、友情の大切さを呼びかけてくれることでしょう。

身（柄山出身）現在愛知県小牧市在住）や中島鉄夫さん（神付出身）現在愛知県海部郡美和町在住）らは「私たちが卒業後約三十年たった今日、こうしたこと

ができたのも、みんなの友情が

あつてのこと。東白川の将来を担う子どもたちにも、友情を大切にし、村を愛する心を育てていってほしい」と話しておられました。

像を寄贈された笠俣重行さん

（柳山出身）現在愛知県小牧市在住）や中島鉄夫さん（神付出身）現在愛知県海部郡美和町在住）らは「私たちが卒業後約三十年たった今日、こうしたこと

東白川小に「友情の像」

28年度卒業生が贈る

れています。

暮らしのカレンダー

※父親が学ぶ会

- ・とき 9月7日 19:30
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 小、中学生を持つ父親
- テーマは「現代の子どもの特性」

※一般、壮年ソフトボール大会

- ・とき 9月12日
- ・ところ 総合運動場、小学校
- 地区別にチーム編成し、多数ご参加ください。

※不燃物収集

- ・とき 9月13日
- ・ところ 村内各集荷場
- 前日の夕方、最寄りの集荷場へ出してください。

※中央婦人教養講座

- ・とき 9月13日 9:30
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 家庭婦人
- テーマは「青少年の健全育成と家庭婦人の務め」の予定。

※村誌講座

- ・とき 9月14日 13:00~
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 講座生
- 「近世・苗木藩の成立と領内支配」について学習する予定。

※乳幼児期学級

- ・とき 9月20日 13:30
- ・ところ 村民センター
- ・対象者 0~3歳児の母親

※1歳6か月児検診

- ・とき 9月22日 13:00
- ・ところ 東白川病院
- ・対象者 S55.4.2~56.4.1生まれの者

※第6回歌舞伎公演会

- ・とき 9月26日 正午開演
- ・ところ 東白川中体育馆
- 復活後6回目を迎えました。ことしもぜひお出かけください。

※結核第1次検診(X線撮影)

- ・とき 9月28、29、30日
- ・ところ 村内17会場
- ・対象者 満15歳以上の人
- 結核検診は義務づけられています。お近くの会場で必ず受けてください。

今月の図書



親離れするとき読む本

神津カンナ著

『親と子はいつも知恵くらべをしているようなものだ。しかし、親には「育児書」などという虎の巻があるのに、子どもにはそういうものがまるでない。大人への準備期間にいる子どもにも親を研究する「育親論」があつてもいいではないか』と、このユニークな発想によって本書は講成されています。親も子も一個の独立した人間なのです。不満もあるけれど互いに尊重しあって生きてゆきたい。そして子どもは育てられ上手であるべきだとカンナさんは言っています。

作者は作曲家・神津善行さんと、女優・中村メイ子さんの娘ですが、単なる「有名人の子」としてではなく、自立していくとする女性の考え方として注目される本です。

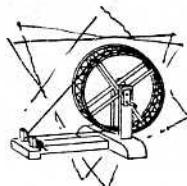
屋敷跡の石垣が昔をしのばせる蟠龍寺跡（大沢地内）



村の文化財 ④

蟠龍寺跡

51年6月1日指定



大沢地内の二車線に改良された直線の道路と、未改良の道路の接点から山手へ百歩ほど入った高台に、蟠龍寺跡があります。寺跡までは幅三尺ほどの参道がまっすぐに伸びており、当時の文化の中心として、また権勢を持つた寺の力がうかえます。蟠龍寺は、今から三百十七年前の寛文五年（一六六五）に鎌倉幕府が建立した飛驒竹原（現下呂町）感徳寺の末寺として建てられたものと伝えられています。その後、苗木城主遠山友政の建てた菩提寺天龍山雲林寺（現中津川市苗木）の末寺として、柏木村、久須見村、宮代村、下野村、大沢村の五ヶ村と、中屋村（現白川町）、須崎村（同）の合わせて七ヶ村に檀家を持ち

明治三年苗木藩の廢仏毀釈によって廢寺になるまで、十二代二百五十年にわたって住民の指導的な役割を果たしてきました。一代までの住職の墓が寺跡の裏山にひつそりと並んで、三百年の昔を語りかけてくれるようでした。廃仏毀釈によって、仏教に関するものをほとんど失った本村にあって、この蟠龍寺跡だけがいまなおお寺の屋敷跡である石垣などにその存在を残しております。文化財としての価値が認められて、昭和五十一年六月一日、村の史跡として指定されました。

『材料』四人分：じやが芋五百㌘、玉ねぎ二分の一個、豚ミンチ百㌘、ミックスペジタブル大きさ三杯、卵二個、小麦粉少々、スキムミルク大きさ三杯、マーガリン大きさ四杯。

『作り方』①じやが芋は皮のままゆで、熱いうちにつぶしておきます。②ベジタブル、玉ねぎのみじん切り、ミンチを油でいため、塩、こしょうで味を整え、スキムミルクと卵一個分を①に入れて混ぜ合わせます。③④を小判型にまとめ、小麦粉をうすくまぶします。⑤火力を弱火にしてフライパンをかけ、マーガリンをこがさないようにして溶かし、③にとき卵をつけて両面をキツネ色に焼きます。⑥つけ合わせにレタス、トマトなどを飾り、ソースー、ケチャップの割合で混ぜ合わせたれを作つて添えます。

今月の料理



「ゆっくり走ろう田舎道」

青年団員らが標識作成

「ゆっくり走ろう田舎道」と書かれた交通安全標識が、平地内の駐在所前にお目見えしました。写真。

バーラに注意を呼びかけていくことでしょう。



時期はずれ
のフジの花



花期を間違えたフジが7月下旬に花を咲かせめずらしがられています。

このフジは、大沢の今井久雄さんと下野の山口和久さんの庭先で相次いで咲いたもの。普通フジの花は5月上旬に花を咲かせますが、2か月以上も遅い開花はあまりないようです。

両方とも近くの山から持ち帰って植えられた
のですが、今井さん宅のは花期には咲かず、
7月24日ごろ突然思い出したように咲きました
また、山口さん宅のものは、5月上旬に咲き

7月になって再び花を咲かせたものです。
写真は今井久雄さんの庭先で思い出したよう
に花をつけたフジ。

青年団が交通安全活動の一環として行つたもので、七月十八日の朝から團員ら二十五人が出て、標識づくりをし駐在所前の県道わきに取り付けました。

このはがきは、單に広報にかかるだけでなく、むしろ町政に対する要望や意見、苦情などを寄せいただくのがねらいです。

みなさんが、日ごろ考えておられるごことを書いてお気軽に寄せください。回答を希望される場合は、必ず住所、氏名などはつきりと書いてください。無記名ですと回答できません。

働きに出るには歳が老けすぎて成すこともなき日日の空しさ	田口 圭一	安江
何時の日かほ場整備にこわさるる畦と思いつ今日の草除る	加藤 公一	
亡き母の使い古せし鯨尺目盛り薄れてたんすの底に	安江 澄	
豪雨去りて増ゆる濁流眺むるに風ぎし山辺に小鳥鳴き出づ	小池 いちの	幸
安江 守平		

ご利用ください
『広聴はがき』

このほど村では、広報広聴活動の一環として、「広聴はがき」を作成し、組長さんを通じて七月の広報といっしょにみなさんのお手元へお届けしました。

五十代を青年となして今年またソフトボールに心若やぐ
孫「ジテンシヤデオチユカニユクヨ」と得意げに電話の

あなたの作品
をお寄せくださ
い。
・初心者、とく
に若い人たち
の投稿を歓迎
します。
・毎月末までに、
神土田口良三
宛に出してください。

超音波手術を受けし眼に映る山の万縁かがやくごとく
白内障治療受けく

先月号安江と志江さんの作品“我が妻も”は“我が夫も”的あやまりでした。おわびして訂正します。